

## 第2回 阿賀野市市政モニター会議 議事要旨

### 1 会議の概要

日 時 令和2年10月27日(火) 午後7:00~8:30

場 所 阿賀野市役所 第1・2多目的ホール

出席者

【モニター】(敬称略)

渡邊 靖、小林武徳、本多 聡美、長谷川 健太、金子 桂子、  
田村 直子、斎藤 斉、立木 雄士、加藤 美紀、北村 直之

【市】

市長政策・市民協働課:課長補佐 遠海 美穂子、  
秘書広報広聴係係長 小林 政仁、同係主事 皆川 佳乃子

### 2 議事概要

- ・普段の生活の中で感じていること、地域や身の回りで起きている変化、疑問に思うことなど
- ・総合計画の政策体系ごとの意見・提言について

### 3 主な意見(○:モニター、●市職員)

【水原駅前の混雑について】

● (「市政モニター会議での意見(水原駅の混雑)の対応協議」に基づき説明)

○朝は、7時台の2本(7時8分発、7時19分発)が混雑のピークで、駐車場は7時前後から、手前にある送迎用スペースから先に埋まっていく。帰りは、新潟方面から来る、6時台と7時頭くらいの2本(18時15分着、19時6分着)がピークであることは間違いない。天候の具合や早期日没などの悪条件が重なると、真っすぐ市民病院へ向かう方も、ガルボ側へ曲がる方も、線路沿いも、どうにもならないほど渋滞する。以前は自転車で来る人も多かったし、家族が駅まで朝晩送迎することも少なかった。少子化にはなっているが、送迎をする人が確実に増えている。

駅裏は送迎する人には便利で、実際にそういう人は結構いる。ただ、駅裏に駐

車場があっても使われていないということは、パークアンドライド的に使う人で、駅裏の方から来る人があまりいないということだと思う。もう少し京ヶ瀬寄りの人は、京ヶ瀬駅に行った方が確実に止められる。

今回、問題であることの共通認識や、課題は何か、どうしたら解決できるかといったことが分かったのは良かった。これまでは、問題だ、何とかしてほしいと思っているだけで、市がどういう考えなのか分からなかった。駐車場奥側の道路をなぜ舗装したのか、いつ使うのかという疑問が解消された。

●前回、「駐車場に空きがない日がある」との発言があったが、具体的な時間帯や状況はお分かりか。

○新発田方面は、部活やテストの関係で高校生の乗車時間が重なってしまうと、駐車場が全部埋まっていることがある（夜7時台、8時台）。そうすると、止める場所がないから、ずっと駅周辺を回っている。一旦駅を出て、若葉町の方へ戻ってまた戻ってきたことが過去に何回かある。

時間差での送迎は、その日にもよると思うが、駅に向かう車と駅から出てくる車で混雑する可能性はある。

降雪により、観光看板の下が雪の山になると、待機スペースがかなり減る。

○植栽帯を撤去することはできないか。

●ご指摘の場所はJRの所有地であるため、JRの許可が必要となる。

駅舎と自転車置き場との間にあるスペースはJR職員用の駐車場なので、基本的に止められない。

○自転車小屋を撤去し、空いている所に白線を引いて駐車スペースにすればいいのではないか。

○多くの市民は、駐車場の一番奥の道路が歩行者用、排雪用として活用されていることを知らないと思う。どのような周知の仕方が良いかは別として、このことを市民に伝えるのは大事と思う。

### 【ふるさと公園の管理について】

○京ヶ瀬のふるさと公園は、図書館が隣接し、遊具も市内では充実していると思うが、小学生や園児、親子連れなど、大勢来るのに、草が多くて遊具で遊ぶにも入りづらいといった場面がよく見られる。もう少しメンテナンスに力を入れて、きれいであれば、人も集まりやすいと思う。

### 【道の駅のPRについて】

○令和4年夏に完成予定の道の駅について、指定管理者は商工会の関係団体に決まっているが、いつ、何ができるか等、あまり知られていないと思う。もっとPR活動をしてもらいたい。

### 【阿賀野バイパスの周知について】

○阿賀野バイパスのインターチェンジについて、インターネットなどで調べたが分からなかった。そこで「市長へのたより」でそのことを質問したら、図面付きで7か所インターチェンジができる旨の回答があった。「市長へのたより」の意見と回答は広報紙などに掲載される場合があるが、私が出した質問と回答が広報あがの10月号に掲載された。建設課の担当者も「阿賀野バイパスのインターチェンジについては、市民の皆さんにお知らせする必要がある」と言っていたので、こういう形ですぐに掲載されたのは即応性という意味ですごいと思った。

### 【阿賀野高校内に開設される居場所カフェのPRについて】

○阿賀野高校の中に居場所カフェが開設されるようだ。学校が地域にとっての居場所を提供できるのは、すごく素敵だと思う。オープンしたら、ぜひ市の方でも特集を組むなど、バックアップしてもらえたらと思う。

### 【クマ出没等の防災情報の発信について】

○今年もクマが頻繁に出没しているが、10月上旬の朝6時台に大室でクマが出たのに、安全安心メールが来たのは朝8時以降。警察が動いているのであれば、もっと早く情報が出回ってもいいのではないか。朝8時だと小学生は登校している。市職員が勤務してない時間帯であることは理解できるが、もう少し警戒心を持ってほしい。

○クマの出没に関するメールが最近ないが、クマは全て捕獲や駆除されたのか。

○1年前に、白鳥荘付近、安野川沿いにクマが出没した際も通過してから放送だった。確認を取ってから放送するのでタイムラグはある。その後、クマは関屋に向かったが、その時は稲刈りの真っ最中で、犬の散歩やランニングをしている人もいたので、その人たちがクマと遭遇したら大変だと思っていたら、その日は見つからずに、翌朝、飯森杉で発見された。でも、そのクマがどうなったか詳しい発表はなかったように思うが、駆除の発表をすると賛否両論が寄せられるとも聞いている。

○クマは駆除できる数が決まっていて、それ以上は放すと聞いたことがある。

○市の安全安心メールは誰でも登録できるのか。

●誰でも登録できる。

○市の安全安心メールで、10月18日の8時18分にクマ目撃情報が来ているし、同日の14時37分にも笹神地域の某地域にクマの出没情報と注意喚起をするためのメールが来ている。県の安全安心メールもある。関心のある人は登録したらいかがかと思う。

●安全安心メールを登録してもらいたいということで、広報あがので毎月お知らせしたり、会合があったりした際はお話をさせていただいている。

●この中で安全安心メールに登録している人はどれくらいいるか。

(結果) 10人中8人が登録している。登録者8名中2名は、迷惑メールのフィルター機能等が原因で受信できなくなった。未登録者2名のうち1名は、安全安心メール自体を知らなかった。

#### 【地域の支え合い活動について】

○ふれあい広場が安田、水原、笹神でできた。京ヶ瀬はサロンをやっているが、なかなかボランティアが集まらないし、利用者の住んでいる地域も偏っていて全域からは来ていない。市は、会場にかかわらず、誰でも、いつでも、自由に過ごせる場所として、雰囲気づくりやPR活動に努めていると思うが、なかなか進まない状況。とりあえずは、家に閉じこもらないようにみんなと話をしたりして、

認知症が進むのを抑えるという目的はあるが、地域包括ケアシステムの中で、高齢者世帯への支援になると、それは地域支え合い推進委員だけでは無理で、自治会と民生委員がみんな一緒になってやっていかないと進まないと思う。

今後さらに、高齢者だけの世帯がかなり増え、周りに若い人がいなくなれば、希望としては若い人に支えてほしいが、結局は少し元気のいい高齢者が他の高齢者を支えなければいけなくなることは目に見えている。だから、若い人にもう少し意識を持ってほしいし、もっと広い感じで話を進めてほしい。

スーパーから遠距離に住んでいる人は、誰かに買い物とかお願いできないと、70歳、80歳になっても免許返納はできない。

○ふれあい広場のような場所に行く人は元気な人。閉じこもりの可能性のある、本当に支援が必要な人は、なかなか誘っても来てくれない。また、最初は来てくれても2回目は来ない。来なくなったと思ったら、認知症が進んでいる。若い人からお手伝いに来てもらいたいが、若い人には仕事がある。ボランティアなので収入を得られないから参加できない。どうしても仕事優先になってしまう。仕事としてなら参加する人はいると思うが難しい。水原地区は参加人数が少ない。

○参加する方は、トイレも食事も自分ででき、おしゃべり好きの方が来る。本当に一人暮らしの方とか、誰とも話す機会がないお年寄りに来てもらいたいが、なかなかそういう人を引き出せない。そこが課題。

○体操教室に参加した人は、その時は「よかった」「こんな体操したら元気になるわ」と言ってくれるが、体操教室の参加費が有料だったり、会場までの移動手段がなく、タクシーが必要だったりすると、何とかしてほしいという声を聞く。

○60歳前後の息子とその親の2人暮らしの家庭は結構多く、日中息子が働きに行っている間は、一人暮らしではないが一人になって、病院や買い物に行けない人がいる。

今の話でいうと、例えば、近所の公民館で体操教室があって、車1台で集落を回り、4人くらい乗せて公民館まで送る。公民館で体操して終わったら送る。各集落で小規模の体操教室を頻繁に行うような、車1台、20分だけという話であればやりやすいのではないか。

○体操だけでなく、お茶会に参加するのも面倒くさくなっていく。マンツーマンでできる支援方法はないものか。

○そこをどうするかが行政の頭の痛いところ。ごずっちょカフェとか、ふれあい広場とか、お茶の間サロンのようなものは、ここ数年でようやく定例化してきた。以前は場所を点々としたり、年度によって場所が変わったりしていた。

誘われようが、自分の意志だろうが、そこに来られる人はいい。

○一応ボランティアで送迎をしているが・・・。

○来たくても来られない人と、誘っても来ない人をどうするかは、福祉の永遠の課題である。地域に一個人に対して世話焼き活動をする人がいるか、いないかであると思う。行政は何かあればその人のために動くし、緊急事態になれば飛んでくる。しかし普段、行政が仕事だからと言ってそこまでできるかというところ、多くの人を対応しているから、ついでに寄ってみることはあるかもしれないが、あの人はどうしているかで動けないのが現実ではないか。

●今後さらに高齢者も増えてくるので、なかなか全部に手が回り切らない部分もあると思うが、やはり地域で支えあうのが大事になってくる。

○一人暮らし、60代と70代の夫婦2人暮らし、年のいった親子、周りもだんだんそうになってきたから、支えてくれる人がいない。救急車に運ばれて行って、その後、誰が空いた家を見てくれるのか。遠くに住んでいる親族に誰が連絡してくれるのか。電球一つ切れても換えられない、灯油も入れられないとか、いろいろと心配がある。

### 【児童クラブについて】

○児童クラブは建物の中にたくさんの子どもたちがいて、熱中症だから外はダメとか、今だったらきっとコロナ対策とか、いろいろ大変だと思う。そのような中で、体育館や屋内運動場での活動を取り入れるには人手が必要だろう。

児童クラブは子どもたちが毎日利用する施設なので、環境が改善したらいいと思うが、今後の見通しはどうか。

●手元に資料がないので、担当の社会福祉課に確認したい。

### 【農業の担い手について】

○農地や空き家をセットにした子育て世代の移住支援の農地は田んぼか？

●農地なので、田んぼ、畑の両方ということだと思う。基本的に移住者の方が住む場所と、畑仕事したいというニーズがあれば農地をセットで入手できる支援策を打ったらどうかということ。

○あくまで趣味の一環としてで、例えば、農協会員になって、農業経営とか、農業の担い手になるとかいう話ではないのか？ 先ほどの話にもつながるが、高齢になると、田んぼができなくなるのが目に見えているので、将来誰かがやってくれたらいいなと思っている。今、個人に委託している農家も多くあるが、受け手が受けきれなくなってきた。小規模な田んぼだと、受けてもらうのが難しい状況である。

### 【防犯灯について】

○予算の問題もあると思うが、街灯が増えることはあるのか。街灯がない区間があり、暗闇の中を中学生が帰ってくる。以前、健康のために歩いている人同士が接触したことがあった。

●市が設置した防犯灯と自治会が設置した防犯灯によって取り扱いが異なる。

○一つの例として挙げれば、安野川を越えて福田の方へ向かう何もない道路に、2、3年前に電柱を立てて防犯灯が付いたが、あれは自治会ではなく、通学路で危険だから市が設置したもの。集落と集落の間は自治会管理ではない。一方、特定エリア（自治会エリア）に街灯を設置する場合は、市が半額補助し、市と自治会が半分ずつ経費を負担する。修繕や取り換えも同じで、今だとLEDになるが、工事代込みで3万円程度。日常管理もするし、壊れたり、蛍光灯の球切れたりした場合、かかりつけの電気工事店に依頼して交換してもらうのは自治会ということ。

●通学路など、重要性・緊急性の高い場所は優先的に設置している。どうしても予算の制約があるので、優先順位をつけながら計画的に整備をしている状況である。市管理以外の防犯灯に対しては、補助金を支給している。